

氏名	日 野 理 彦		
学位(専攻分野)	博 士(医 学)		
学位授与番号	博 乙 第 2482 号		
学位授与の日付	平成 4 年 9 月 30 日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)		
学位論文題目	老年者肺小細胞癌の化学療法に関する研究		
論文審査委員	教授 太田 善介	教授 辻 孝夫	教授 折田 薫三

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

老年者肺癌の内科的治療の進歩と限界を探索する目的で1982年から1990年までに経験した218例の肺小細胞癌（SCLS）患者を老年者（66歳以上）と非老年者（65歳以下）に分けてその治療成績を比較検討した。化学治療は1982年からCOMP-VAN療法、1986年からCAV-PVP療法である。

化学療法或いは化学療法と放射線治療併用で、その全奏効率には老年者と非老年者間で差はなく、CR率でも殆ど差がみられなかった。生存期間中央値及び3年生存率にも差がみられなかった。

前期と後期の治療成績の比較では後期に成績がよく、とくに老年者で顕著であった。

治療の副作用に関する検討では血液異常は老年者に頻度が高い傾向がみられたが、規定通りに薬剤の減量が行われれば大差がないことが示された。

以上の結果からSCLCの場合、老年者においても強力な治療が可能で、非老年者に劣らない成績が得られることが示された。

### 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は老年者肺癌の内科的治療の進歩と限界を探索する目的で1982年から1990年までに経験した218例の肺小細胞癌（SCLC）患者を老年者（66歳以上）と非老年者（65歳以下）に分けてその治療成績を比較検討したものである。その結果SCLCの場合、老年者においても強力な治療が可能で、非老年者に劣らない成績が得られることが示された。これは価値ある新知見であり、よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。